

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月8日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社タツミ

【英訳名】 TATSUMI Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伏島 利行

【本店の所在の場所】 栃木県足利市南大町443番地

【電話番号】 0284-71-3131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 木村 英典

【最寄りの連絡場所】 栃木県足利市南大町443番地

【電話番号】 0284-71-3131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 木村 英典

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第2四半期連結 累計期間	第73期 第2四半期連結 累計期間	第72期
会計期間	自2022年 4月1日 至2022年 9月30日	自2023年 4月1日 至2023年 9月30日	自2022年 4月1日 至2023年 3月31日
売上高(千円)	3,019,517	3,550,752	6,411,178
経常利益又は経常損失() (千円)	92,305	106,363	263,620
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期(当期)純損 失() (千円)	171,315	58,178	394,622
四半期包括利益又は包括利益(千円)	169,107	345,645	301,220
純資産額(千円)	3,783,309	3,658,626	3,312,981
総資産額(千円)	8,850,453	8,899,505	8,362,032
1株当たり四半期純利益又は1株当たり 四半期(当期)純損失() (円)	28.58	9.70	65.82
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益(円)			
自己資本比率(%)	32.0	30.3	29.5
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	107,754	108,413	154,988
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	20,643	60,115	11,330
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	119,226	172,506	9,248
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	683,505	620,015	715,672

回次	第72期 第2四半期連結 会計期間	第73期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2022年 7月1日 至2022年 9月30日	自2023年 7月1日 至2023年 9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失() (円)	16.46	6.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により社会経済活動の正常化が進み、個人消費や設備投資に持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、円安の進行、原材料・資源価格の高騰や世界的な金融引き締めに伴う影響などにより、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な取引先である自動車業界では、車載半導体等の供給制約の緩和により自動車各社の生産台数が回復し、国内新車販売台数は前年実績を上回る状況が続いております。

このような環境のなか、当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は、売上高は3,550,752千円（前年同期比17.6%増）、営業損失は6,375千円（前年同期は177,172千円の営業損失）、経常利益は106,363千円（前年同期は92,305千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は58,178千円（前年同期は171,315千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は、8,899,505千円（前連結会計年度末8,362,032千円）となり、537,472千円増加しました。流動資産は4,082,652千円となり208,062千円増加し、固定資産は4,816,852千円となり329,410千円増加しました。

当第2四半期連結会計期間末における負債の合計は、5,240,878千円（前連結会計年度末5,049,051千円）となり、191,827千円増加しました。流動負債は4,625,605千円となり200,624千円増加し、固定負債は615,273千円となり8,796千円減少しました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の合計は、3,658,626千円（前連結会計年度末3,312,981千円）となり、345,645千円増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、95,657千円減少し620,015千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果得られた資金は、108,413千円（前年同期は107,754千円の支出）となりました。

これは主に、減価償却費の計上によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果支出した資金は、60,115千円（前年同期は20,643千円の収入）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果支出した資金は172,506千円（前年同期は119,226千円）となりました。

これは主に、リース債務の返済によるものであります。

- (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題
当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。
- (4) 研究開発活動
当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、35,779千円であります。
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,000,000	6,000,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,000,000	6,000,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	6,000,000	-	715,000	-	677,955

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社ミツバ	群馬県桐生市広沢町1 - 2681	3,186	53.14
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2 - 12 - 6	300	5.00
タツミ取引先持株会	栃木県足利市南大町443	289	4.83
株式会社横浜銀行 (常任代理人 株式会社日本 カストディ銀行)	神奈川県横浜市西区みなとみらい3 - 1 - 1 (東京都中央区晴海1 - 8 - 12)	250	4.17
タツミ従業員持株会	栃木県足利市南大町443	162	2.71
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町2 - 6 - 2	150	2.50
浜銀ファイナンス株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい3 - 1 - 1	100	1.67
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2 - 6 - 21	59	0.99
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1 - 6 - 1	40	0.67
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1 - 4	33	0.56
計	-	4,571	76.25

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,994,000	59,940	-
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	6,000,000	-	-
総株主の議決権	-	59,940	-

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社タツミ	栃木県足利市南大町 4 4 3 番地	4,800		4,800	0.08
計	-	4,800		4,800	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新宿監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	715,672	620,015
受取手形、売掛金及び契約資産	890,596	1,056,228
電子記録債権	651,553	705,790
商品及び製品	85,309	191,394
仕掛品	491,126	470,786
原材料及び貯蔵品	721,713	810,866
未収入金	280,266	183,246
未収法人税等	1,206	-
その他	37,144	44,324
流動資産合計	3,874,590	4,082,652
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,270,494	3,431,231
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,150,525	2,234,129
建物(純額)	1,119,968	1,197,101
構築物	180,399	180,399
減価償却累計額	155,955	157,396
構築物(純額)	24,444	23,003
機械及び装置	6,076,742	6,348,281
減価償却累計額及び減損損失累計額	4,697,766	5,000,229
機械及び装置(純額)	1,378,975	1,348,051
車両運搬具	24,722	27,596
減価償却累計額及び減損損失累計額	21,994	23,302
車両運搬具(純額)	2,727	4,293
工具、器具及び備品	588,659	622,579
減価償却累計額及び減損損失累計額	512,800	547,321
工具、器具及び備品(純額)	75,859	75,257
土地	275,685	296,939
リース資産	945,753	918,422
減価償却累計額及び減損損失累計額	327,939	245,943
リース資産(純額)	617,813	672,479
建設仮勘定	588,744	786,806
有形固定資産合計	4,084,219	4,403,933
無形固定資産		
借地権	4,892	4,892
ソフトウェア	1,344	464
その他	847	847
無形固定資産合計	7,084	6,204

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	34,130	38,441
長期前払費用	2,085	1,495
退職給付に係る資産	312,284	321,392
その他	47,636	45,385
投資その他の資産合計	396,137	406,714
固定資産合計	4,487,442	4,816,852
資産合計	8,362,032	8,899,505
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	183,895	266,663
短期借入金	2,864,160	2,883,446
リース債務	202,367	168,128
未払金及び未払費用	991,648	1,075,975
未払法人税等	8,145	33,230
賞与引当金	117,267	119,087
役員賞与引当金	2,753	1,844
その他	54,745	77,230
流動負債合計	4,424,981	4,625,605
固定負債		
リース債務	482,101	455,370
繰延税金負債	93,488	103,661
退職給付に係る負債	48,480	56,240
固定負債合計	624,070	615,273
負債合計	5,049,051	5,240,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	715,000	715,000
資本剰余金	621,796	621,796
利益剰余金	991,447	1,049,626
自己株式	1,808	1,808
株主資本合計	2,326,435	2,384,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,081	4,987
為替換算調整勘定	210,862	384,754
退職給付に係る調整累計額	75,304	73,454
その他の包括利益累計額合計	137,640	316,287
非支配株主持分	848,906	957,725
純資産合計	3,312,981	3,658,626
負債純資産合計	8,362,032	8,899,505

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	3,019,517	3,550,752
売上原価	2,816,252	3,165,347
売上総利益	203,264	385,405
販売費及び一般管理費	380,437	391,780
営業損失()	177,172	6,375
営業外収益		
受取利息	407	326
受取配当金	1,049	1,042
為替差益	110,807	137,566
その他	2,397	2,951
営業外収益合計	114,662	141,888
営業外費用		
支払利息	29,771	28,967
その他	24	181
営業外費用合計	29,795	29,149
経常利益又は経常損失()	92,305	106,363
特別利益		
固定資産売却益	2,441	29
特別利益合計	2,441	29
特別損失		
固定資産売却損	-	4,886
固定資産除却損	125,308	13,171
減損損失	-	533
特別損失合計	125,308	18,592
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	215,172	87,801
法人税等	20,831	23,160
四半期純利益又は四半期純損失()	236,004	64,640
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	64,688	6,461
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	171,315	58,178

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	236,004	64,640
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,114	2,905
為替換算調整勘定	407,716	276,249
退職給付に係る調整額	1,489	1,849
その他の包括利益合計	405,111	281,004
四半期包括利益	169,107	345,645
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,514	236,826
非支配株主に係る四半期包括利益	87,593	108,818

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	215,172	87,801
減価償却費	191,048	187,836
減損損失	-	533
有形固定資産除却損	125,308	13,171
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	13,111	9,107
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,225	1,826
賞与引当金の増減額(は減少)	531	1,820
役員賞与引当金の増減額(は減少)	20	909
受取利息及び受取配当金	1,457	1,369
支払利息	29,771	28,967
為替差損益(は益)	210	150
有形固定資産売却損益(は益)	2,441	4,856
売上債権の増減額(は増加)	52,504	41,075
棚卸資産の増減額(は増加)	68,221	87,606
仕入債務の増減額(は減少)	91,910	69,878
未払金の増減額(は減少)	4,899	53,988
その他の流動資産の増減額(は増加)	51,628	67,275
その他の流動負債の増減額(は減少)	38,490	2,141
小計	75,335	137,353
利息及び配当金の受取額	1,457	1,369
利息の支払額	29,819	28,597
法人税等の支払額	4,057	1,710
営業活動によるキャッシュ・フロー	107,754	108,413
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	88,977	44,994
有形固定資産の売却による収入	105,381	30
無形固定資産の取得による支出	-	3,219
投資有価証券の取得による支出	129	132
投資その他の資産の増減額(は増加)	4,368	11,799
投資活動によるキャッシュ・フロー	20,643	60,115
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	67,020	42,321
リース債務の返済による支出	52,206	130,185
財務活動によるキャッシュ・フロー	119,226	172,506
現金及び現金同等物に係る換算差額	38,267	28,551
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	168,070	95,657
現金及び現金同等物の期首残高	851,575	715,672
現金及び現金同等物の四半期末残高	683,505	620,015

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
当座貸越極度額	2,700,000千円	2,500,000千円
借入実行残高	1,035,000	1,035,000
差引額	1,665,000	1,465,000

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給与	81,397千円	85,777千円
賞与引当金繰入額	10,265	11,397
役員賞与引当金繰入額	2,753	1,844
退職給付費用	830	239
運搬費保管料、荷造包装費	131,795	125,024

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定 預入期間が3か月を超える定期預金	683,505千円	620,015千円
現金及び現金同等物	683,505	620,015

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、自動車用部品事業の単一のセグメントであるため、記載しておりません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	当第2四半期連結累計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日
日本	2,127,119	2,387,856
米州	649,516	898,883
アジア	242,881	264,013
顧客との契約から生じる収益	3,019,517	3,550,752
その他の収益		
外部顧客への売上高	3,019,517	3,550,752

(注) 当社グループは、自動車用部品事業の単一セグメントであるため、顧客との契約から生じる収益を分解した情報についてセグメントに関連付けて記すことはしておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	28円58銭	9円70銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	171,315	58,178
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	171,315	58,178
普通株式の期中平均株式数(株)	5,995,173	5,995,173

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月8日

株式会社タツミ
取締役会 御中

新宿監査法人
東京都新宿区

指定社員 公認会計士 田 中 信 行
業務執行社員

指定社員 公認会計士 壬 生 米 秋
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社タツミの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社タツミ及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。